



TITLE:

かんとト軌近ノ社會主義(二)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. かんとト軌近ノ社會主義(二). 經濟論叢 1918, 7(4): 513-522

ISSUE DATE:

1918-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/127442>

RIGHT:

かんとト軌近ノ社會主義 (二)

米田 庄太郎

(三) 社會主義ノかんと化運動

新かんと派ノ中ニ社會主義化運動ノ發達シ來レル理由及び經路ハ大體上前節ニ於テ述ベシガ如キモノデアルガ、然ラハ之レト伴ナイ、之レガ影響ヲ受ケテ發達シ來レル社會主義ノかんと化運動ハ如何ナル原因ニヨリテ發生シ、又今日マデニ如何ナル經路ヲトツテ發達シテ來タカ。

(1) 「まゐるくす主義ノ危機」

夫レ第十九世紀ノ後半紀ニ入リテヨリ、社會主義思想界ヲ風靡シタノハまゐるくす主義デアッタ。然ルニ同世紀ノ終リノ十年代、即チ千八百九十年代殊ニ其ノ中頃ニ至ツテ「まゐるくす主義ノ危機」又ハ「まゐるくす主義ノ瓦壞」ガ叫バレテ來タ。而シテ夫ヨリシテ社會主義ノ理想主義化運動ガ發達シ、又其ノ最トモ有力ナル一潮流トシテかんと化運動ガ發達シテ來タノデアアル。サレバ「社會主義ノかんと化運動」ノ真相ヲヨク理解スル爲メニハ、先ヅ「まゐるくす主義ノ危機」又ハ「瓦壞」トハ何ヲ意味スルカラ理解シテ置カネバナラヌ。要スルニ「まゐるくす主義ノ危機」又ハ「瓦壞」ナルモノガ、軌近ノ社會主義ニ於ケル理想主義的傾向、かんと化ノ傾向ノ大ニ發達

以來レル直接原因デアルノデアル。

今まゝるくす主義ハ直接ニハ社會的唯物主義ヲ基礎トシ、而シテ根本的ニハ哲學的唯物主義ヲ基礎トスルモノデアル。但シまゝるくす自身ハ徹底的ナ唯物主義者デアリシヤ否ヤハ疑問デアルガ、トニカク社會的ニ勢力ヲ振ヘルまゝるくす主義ナルモノハ、只今述ベシ如ク社會學的ニ又哲學的ニ唯物主義的ノモノト觀念サレテ居ルノデアル。而シテ千八百九十年代ニ於テ起レル「まゝるくす主義」ノ危機又ハ瓦壞「ナル現象ハ根本的ニハまゝるくす主義者ガ社會的唯物主義更ニ哲學的唯物主義ノ不完全、不徹底ナルヲ自覺シ來レル傾向ヲ意味スルモノデアル。而シテ夫レヨリ社會的又哲學的ニ理想主義ヲ加味シ又ハ之レニ轉化セントスル傾向ガ起リ、更ニ之レニ附屬シテまゝるくす主義ノ理論的并ニ實際的問題ニ關スル諸見解ノ種々ナル變動ガ起ツテ來タノデアル。普通ニまゝるくす主義ノ危機又ハ瓦壞ト云ヘハ其等ノ諸現象或ハ諸傾向ヲ包括スルモノデアル。而シテ表面上ヨリ見レバ甚ダ錯雜セルモノデアルガ、余ハ之ヲ根本的ニハ二種ノ方針ニ總括スルコトガ出來ルト思フ。其ノ一ハ理論的ニハまゝるくす主義ヲ合理的理想主義化シ、實際的ニハ革命主義ヲ棄テ進化主義、改良主義ニ移ラントスル方針ニシテ、而シテ其ノ二ハ理論的ニハまゝるくす主義ヲ非合理的理想主義化シ、實際的ニハ革命主義ノ軟化ヲ排シテ益々過激ナル革命主義ニ進マントスル方針デアル。然ルニかんと哲學ノ大ニ影響ヲ及ボセルハ第一ノ方針ノ發達ニ於テデアリ、又第二ノ方針ノ發達ニ就テハ余ハ嘗テ京都法學會雜誌ニ於テ公ニセル論文「革命的さんちかりずむト現代生活」ニ於テ詳シク論述シタカラ茲ニハ只第一ノ方針ノ發達ニ就テかんと化運動

ノ發達ヲ論究スルダケニ止メル。

却説えんげるすノ云フ處ニヨレバ「唯物史觀説」ト「餘剩價值ニヨリテ資本主義的生産ノ秘密ヲ闡明セルコト」トハ、まゐるくすノ二大發見ニシテ、之レニヨリテ社會主義ハ始メテ科學的トナツタノデアル。サレバ唯物史觀説ト餘剩價值説トハまゐるくす主義ノ根本的ニ要素ヲナスモノト認メチバナラス。隨フテ又まゐるくす主義ノ危機ト云ヘバ根本的ニハまゐるくす主義者間ニ於ケル此等ノ二説ノ動搖、即チ其ノ不完全不徹底ナルヲ彼等ノ自覺シ來レルコトヲ意味スルノデアル。併シ「餘剩價值説」ノ動搖ヨリハ唯物史觀説或ハ社會的唯物主義ノ動搖 方ハ一層重大ナル根本的意義ヲ有スルモノデアル。ソレデ茲ニハ餘剩價值説ノ動搖ニ就テハ極簡單ニ説述スルニ止メ、特ニ唯物史觀説ノ動搖ニ就テ稍々詳シク論述スルコトスル。

まゐるくすノ死後千八百九十四年ニ「資本論」第三卷ガ公ニサレルマデハ、餘剩價值説ハまゐるくすノ價值論ノ全體デアルガ如クニ見做サレテ居ツタ。而シテ餘剩價值説ニ關スル問題ト云ヘハ之レニ對スル非まゐるくす主義ノ學者ノ加フル批評非難トまゐるくす主義者ノ答論辨駁ヲ意味スルモノデアツタ。然ルニ資本論第三卷ノ出版ニヨリテまゐるくす主義者自身ノ間ニ餘剩價值説ハまゐるくすノ價值論トシテ如何程眞實ナルモノデアルカガ問題トナツテ來タ。是レ同卷ニ於テまゐるくすハ少クモ見掛上餘剩價值説ト反對スル價值説ヲ述ベテ居ルカラデアル。まゐるくすノ餘剩價值説ナルモノハ今日識者ノ間ニ汎ク知ラレテ居ツテ茲ニ別ニ詳シク之ヲ説述スル必要ハナイト思フガ、要スルニ餘剩價值説ノ根本思想ハ實質サレル貨物ノ價值ハ總テ勞働ヨリ生ジ、而シ

テ資本家ノ收ムル利得ハ勞働者ノ餘剩勞働ヨリ生ズル餘剩價值デアルト云フニ在ルノデアル。然ルニ資本論第三卷ニ於テハまゐるくすハ生産物ノ價值、隨フテ又資本家ノ利得ハ資本ノ使用ニヨリテ決定サレルモノニシテ、同等ノ資本ハ同一ノ期間ニ於テ、假令勞働ノ同量ヲ含マザルモ、比較的ニ同一ノ利得ヲ與フルモノデアルト論ジ、又需要供給ノ法則ニ非社會主義的經濟學者ノ認ムルト同様ナル重要ヲ認メテ居ル。而シテ此ノ如キ價值論ハ少クモ見掛上明白ニ餘剩價值論ト矛盾スルモノデアル。ソコデまゐるくす主義者自身ノ間ニ於テモ價值論ニ關シテ議論ガ沸騰シ、餘剩價值説ガ動搖シテ來タ。茲ニまゐるくす主義者間ノ價值論爭ニ就テ詳シク述ブル暇ハナイカラ只其ノ結果ノ一般ヲ簡單ニ説述スルニ止メルガ、要スルニ餘剩價值説即チ資本論第一卷ノ價值説ト資本論第三卷ノ價值説トノ矛盾ハ單ニ見掛上ニ止マリ、眞實ニハ一致スルモノデアルトヲ論證セント企ツル人々ノ少ナカラザルニ拘ラズ、大ニ批判的精神ニ富メル人々ハ一般ニ兩者ノ間ニ眞實ナル矛盾ノ存在スルコトヲ認メ、而シテ或者ハ餘剩價值説ヲ保持スルガ、而モ夫レハ只資本主義時代ノ初期ニ於テノミ適用シ得ラルルモノデアルト論ジ、更ニ或者ハ之ヲ不問ニ附シ、又ハ之ヲ放棄セントシテ居ルノデアル。併シ餘剩價值説ノ動搖ハ「まゐるくす主義ノ危機」トシテ重要ハ重要デアルガ、而モ唯物史觀説ノ動搖ホド根本的ニ重要ナルモノデナイ。ソレデ茲ニハ餘剩價值説問題ニ就テハ、以上述ベシグラヒニ止メ、是レヨリ特ニ唯物史觀説ノ動搖ニ就テ論ズルコトトスル。

夫レまゐるくすノ唯物史觀説ノ眞相ニ就テハ種々ナル解釋ガ下サレテ居ルガ、トニカク彼ガ

「經濟學批判」ノ緒言中ニ述ベテ居ルコトハ彼ノ唯物史觀說ノ一般的思想ヲ最トモ簡明ニ云ヒ表セルモノト認メラレテ居ル。茲ニ其要點ヲ簡單ニ述ブレハ、「人類ハ其ノ生活ノ社會的生產ニ於テ、必然的ニシテ彼等ノ意志ヨリ獨立セル一定ノ關係、即チ物質的生產力ノ一定ノ發達階段ニ應ズル生產關係ニ從フモノデアル。而シテ生產關係ノ總體ガ經濟的構造ヲナシ、之ヲ眞實ナル基礎トシテ法律的及ビ政治的形態ガ形成セラレ、又之レニ應ジテ一定ノ社會的意識形態ガ發現スルノデアル。ツマリ物質的生活ノ生產方法ハ一般ニ社會的、政治的及ビ精神的生活過程ヲ制約スルノデアル。サレバ人類ノ意識ガ彼等ノ存在ヲ決定スルノデハナク、之レニ反シテ彼等ノ社會的存在ガ彼等ノ意識ヲ決定スルノデアル」。而シテ一般ニまゐるくす主義ノ唯物史觀說ト云フハ、右ノ思想ヲ基本トシテ展開サレタルモノデアル。然ルニ右ノ思想ヲ批判的ニ考察シテ見ルト、種々ナル疑問ガ起ツテクル。而シテ其ノ批判的考察ハ千八百九十年代ニ入りテヨリ大ニ發達シ來リ、茲ニ唯物史觀說ガ大ニ動搖シテ來タノデアル。

先ヅ第一ニ唯物史觀說ノ最トモ基本的ナル觀念、物質的生產力ノ觀念ノ眞義ガ疑問トナツテ來タ。まゐるくすノ歷史哲學ニ於テ此ノ生產力ノ觀念ガ甚ダ重大ナル役目ヲ演ジテ居ルコトハ何人モ直チニ注目スルコトデアルガ、然ルニまゐるくすハ嘗テ之レガ明確ナル定義ヲ下シタコトハナイノミナラズ場合ニ應ジテ種々様々ナル意味ニ用ヒテ居ル。又時ニハ其ノ中ニ種々ナル觀念の要素ヲモ含蓄セシムルコトガ出來ル意味ニモ用ヒテ居ル。尙ホえんげるすモ其ノ著作中何處ニ於テモ生產力ノ觀念ノ定義ヲ下シテ居ラナイ。併シ唯物史觀說ノ主意カラ徹底的ニ考フレバ生產力ヲ

全ク又ハ根本的ニ物質的ノモノト觀念セネバナラヌガ、而モ此ノ如クニ觀念スルニ於テハ現實ナル歴史的事實ト衝突スル恐レアルコトガ明ラカデアル。

次ニ經濟的基礎ト法律的及ビ政治的構成并ニ社會的意識形態或ハ觀念的形態トノ關係ニ就テ問題ガ起ツテ來タ。是レ此ノ關係ニ關スルまゝるくすノ言說ハアマリ明確デナク、之ヲ批判的ニ考察スルト少クモ三種ノ解釋カ下シ得ラレルカラデアル。其ノ一ハ其ノ關係ヲ因果關係ト見ル解釋ニシテ、其ノ二ハ條件ノ關係ト見ル解釋、其ノ三ハ平行關係ト見ル解釋デアル。換言スレバ經濟的基礎ガ原因ニシテ法律的及ビ政治的構成并ニ觀念的形態ハ結果デアルト見ル解釋ト、前者ハ後者ノ發達スル條件デアルト見ル解釋ト、兩者ハ平行的ニ相伴ナフテ發達スルモノト見ル解釋トノ三種ノ解釋ガ下シ得ラレルノデアル。而シテ唯物史觀說ノ主意カラ徹底的ニ考フレバ第一種ノ解釋ヲ正當ト認メネバナラヌト思フガ、併シまゝるくすハ果シテ第一種ノ解釋ヲ下シテ居ツタノデアラウカ。多分ソウデアラウト思ハレルガ、而モ彼ノ用ヒテ居ル言葉ノ上カラ考ヘルト、第二種ノ解釋ガ彼ノ眞意デアツクト見做スコトモ出來ル。又第三種ノ解釋モ彼ノ眞意ヲ發揮スルモノト見做シ得ラレナイコトハナイ。併シ若シ第二種又ハ第三種ノ解釋ガ彼ノ眞意デアツタトスルト茲ニ唯物史觀說ニ破綻ヲ生ジテクル。而モ第一種ノ解釋ヲ以テ彼ノ眞意ト認ムルト事實ニ矛盾シテクル。斯クテ唯物史觀說ノ基礎ハ自カラ動搖シテ來タノデアル。

更ニ經濟的基礎ノ上ニ發達スルト云ハルル法律的及ビ政治的構成并ニ社會的意識形態相互間ノ關係ニ就テまゝるくすハ如何ニ觀念シテ居ツタカハ問題トナツテ來タ。或場合ニ於テハ彼ハ經濟

的基礎ノ上ニ、先ヅ法律の及ビ政治の構成ガ發達シ、次ニ其ノ上ニ社會の意識形態ガ發達スルト云フガ如クニ、一定ノ體統的關係、即チ上下位階の關係ガ彼等ノ間ニ存在スルモノト考ヘテ居ツタト解釋シ得ラレルガ、他ノ場合ニ於テハ法律の及ビ政治の構成并ニ社會の意識形態ハ同等ノ意味ニテ經濟の基礎ノ上ニ發達シ、彼等ノ關係ハ同列のニシテ體統的デナイト解シテ居ツタトモ思ハレル。然ルニ彼等ノ關係ヲ體統的ト見ルカ、又ハ同列的ト見ルカハ社會學上重大ナル意義ヲ有スル見解ノ差異ニシテ、何レデモヨイトシテ輕視スルコトノ出來ナイ問題デアルノデアル。而シテまゐるくすノ眞意ハ體統的關係ヲ認ムルニ在ルト解スル説ト同列的關係ヲ認ムルニアルト解スル説トガ現ハレ、更ニまゐるくすハ始メハ其ノ關係ヲ同列的ト考ヘテ居ツタガ、後ニ之ヲ體統的ト考フルニ至ツタノデアルト見テ、其ノ見解ノ變動ノ理由ヲ研究シタ人々モアル。

今以上述ベシガ如キまゐるくすノ唯物史觀說ニ關スル根本の問題ガまゐるくす批評家ノ中ヨリ又まゐるくす主義ノ學者自身ノ間ヨリ起リテ、茲ニ唯物史觀說ノ動搖ガ始マツタノデアルガ、其ノ根本的意義ハツマリ社會ノ形成及ビ進化ニ於テ物質的因素ノ器械主義の必然的作用ガ如何ニ重要デアツテモ、只夫レノミデ到底十分ニ之ヲ説明シ得ラルルモノデナイコトヲ、まゐるくす主義者ニ意識セシメタル點ニアルノデアル。斯クテ彼等ノ間ニ觀念的因素并ニ其ノ目的論的作用ノ重要ヲ認メテ唯物史觀說ノ根本思想ヲ修正セントスル傾向ガ發達シテ來タ。吾人ハまゐるくすト協力シテ唯物史觀說ヲ創說シタト云ハルル、えんげるす其ノ人ノ晩年ノ思想ニ於テモ、明ラカニ右ノ傾向ヲ發見スルモノデアル。殊ニ彼ノ死後千八百九十五年「社會主義のあかでみか」及ビ「ら

「いぶちつひ人民新聞」ニ於テ公ニサレタル彼ノ書簡四通ニ於テ、最トモ明カニ右ノ傾向ヲ見ルコ
ガ出來ル。此等ノ書簡ニ於テハえんげるすハ明ラカニ歴史の進化ニ於ケル觀念の要素ノ重要ヲ認
メ又器械主義の考察法ト目的論の考察法トノ調和ヲ試ミテ居ルノデアル。サレバまゐるくすトカ
んとトノ結合或ハ調和ヲ熱心ニ企テタル社會主義學者ノ一人ヲおるどまんハ右ノえんげるすノ書
簡中ノ思想ニ就テ左ノ如ク評シテ居ル。「此等ノ思想ハモトノ學說ニ加ヘラレタル根本のニシテ開
明的ナル變更ヲ含ンデ居ル。併シ吾人ハ茲ニえんげるすノ述ブル如ク、まゐるくすモ亦彼ト同ジ
ク歴史ニ於ケル最後ノ決定の要素ハ現實生活ノ生産及ビ生殖デアルト云フヨリ以上ニハ主張シナ
カツタト云フ意見ニハ同意スルコトハ出來ナイ。彼等ハ時ニハ夫レ以上ノ主張ヲシテ居ツタノデ
アル。又茲ニえんげるすノ承認スル處ノ思想、例ヘハ理想的觀念ハ歴史の闘争ノ進行上ニ作用シ、
且ツ多クノ場合ニ於テ其ノ形態ヲ決定スル主要ナル勢力デアルト云フ思想ハ、彼ハ是レマデ嘗テ
何處ニモ主張シタコトノナイモノデアル。茲ニ彼ノ説クガ如キ相互の影響ノ觀念ハ、是レマデニ
まゐるくすヤ彼ノ立言シタ何レノ公式ニ於テモ見ヘナイ處ノ歴史ノ一新要素デアル。併シ此ノ觀
念ハ彼等ノ從來ノ考察法ニ於ケル多クノ偏見ヲ矯正スルヲ得ルモノデアル云々。」

却説まゐるくす主義者ノ間ニ以上述ベシガ如クニ觀念の要素ヤ目的論の考察ヲ重ンジ、唯物主
義ニ理想主義ヲ加味スル傾向ガ發達シ來レル其頃ニサキニ述ベシガ如ク新かんと派ノ哲學者ノ間
ニ社會主義化スル傾向ガ發達シタカラ、茲ニ社會主義者ノ理想主義化ノ運動ハ殊ニかんと哲學ノ
影響ヲ受ケテかんと化スルコトナツタノデアル。

尙ホ社會主義ノ理想主義化運動ニ於テかんと哲學ガ殊ニ重要ナル影響ヲ及ボスニ至レル實際的理由ガアル。夫レまゝるくすノ唯物史觀說ノ主意ヲ徹底的ニ推究シテ行ケバ、資本主義ノ瓦壞及ビ社會主義ノ實現ハ全ク器械的必然的ニ成就サレルモノニシテ、人類ハ理想主義的目的論的ニ努力ス可キ必要ハナイコトニナル。人類ハ奮闘努力シテモ何ノ甲斐モナイト同時ニ、手ヲ拱テ居ツテモ社會主義ハ必然的ニ實現サレルコトニナル。サレド實際ノ狀態及ビ形勢ハ到底此ノ如キ樂天的無爲ノ態度ヲ許サナイ。社會主義ノ實現ヲ目的トシテ意識的計畫的ニ奮闘努力シナケレバ、其ノ目的ノ到底達シ得ラレナイコトハ實際ノ狀態及ビ形勢ノ明ラカニ教ユル處デアル。而シテ此ノ事ハツマリ社會進化ニ於ケル觀念的因素、理想主義ノ勢力ノ重要ナルヲ意味スルモノデアル。更ニ此事ハ又社會主義ヲ自然科學的ニ論證スルダケデ十分デナク、倫理的ニモ論證シナケレバナラヌコトヲ意味スル。否ナ倫理的論證ハ自然科學的論證ヨリモ一層重要ナルモノデアルト云フ見解ヲモ誘致スル。斯クテまゝるくす主義者ハ實際の方面ニ於テモ理想主義ヲ加味シ、或ハ理想主義化スル必要ヲ覺ツテ來タノデアル。而シテ今社會主義ヲ倫理的ニ論證セントスルニ當テ、其ノ基礎トナスニ最トモ適當ナル倫理的原理ハ正義ノ觀念平等及ビ同權ノ觀念等デアル。まゝるくす主義以前ノ倫理的社會主義ハ一般ニ正義觀念ヲ其ノ倫理的基础トシテ居ツタノデ、而シテまゝるくすモ始メハ矢張り正義ノ實現ヲ其ノ社會主義ノ基礎トモ亦目的トモナシテ居ツタト思フ。併シ其ノ後社會主義ヲ自然科學的ニ論證スルコトヲ主眼トスルニ至ツテ、彼ハ正義觀念ヲ殆ンド忘レテ仕舞フタ。而モ平等及ビ同權ノ觀念ハ保持サレテ居ツタ。斯クテまゝるくす主義者ガ上ニ述ベシ

ガ如キ理由ニヨリテ社會主義ヲ倫理的ニ論證セントスルニ當テ、其ノ倫理的基礎ヲ人間ノ平等及ビ同權ノ觀念ニ於テ求メントシタ。然ルニかんとノ人格自己目的ノ原理ホド此ノ倫理的原理ヲ徹底的ニ論證シ、確立セルモノハナイ。此クテまゐるくす主義者ガ實際の方面ヨリ社會主義ヲ理想主義化セントスルニ當テモ、其ノ倫理的原理ヲ矢張り、かんとノ哲學ニ於テ求メルコトトナツタノデアル。

以上述ベシカ如キ理由ニヨリテまゐるくす主義ガ理想主義ヲ加味シ、或ハ理想主義化殊ニかんと化スルニ至ツテ、其ノ理論的思想ニ於テモ、亦實際的手段ニ於テモ種々重要ナル變動ヲ生ジテ來タノデアル。茲ニ其等ノ點ニ就テ詳シク述ブル暇ハナイガ、是レヨリまゐるくす主義者ノかんと化運動ノ發達ヲ概論スル中ニ其ノ一斑ヲ述ブルコトトスル。